

料金後納
ゆうメール

遠くの太鼓

二〇一七年 二月十八日(土) ～ 二十六日(日) 会期中無休
営業時間 十一時～十八時 出展者在廊日 二月十八日(土)

遠い昔、まだ人の周りに精霊や神が存在した頃、人の作るものは祭祀具も実用具も区別なく、信仰の対象として作られていました。言語や文明が発達し、人間主体の社会が形成されると共に、その象徴性は人の自己表現に取り替わっていきます。しかし未だ科学では解明しきれない無極の宇宙から極微な分子の世界まで、人は目に見えぬ力によって司られています。

昨今のアールブリュット（アウトサイダーアート）、トライバルアートへの関心は、人は何故作るのかという創生への根源的な問い掛けです。今、再び絶対的なものに捧げた造形物を見ると、人はあらためて畏怖の念を抱き、そこに籠められた純粋な美しさに気付くのです。

今展にはプリミティブ、民族的、土俗的な物が並びますが、決してアカデミックな文脈から集められた物ではなく、今この時代に人の心を揺さぶる「美の鼓動」として、時代・地域・用途など既成の尺度を超えて蒐集・創作されたものです。形から入るのではなく、未知の力を体で受け止めるように心を開けば、本来人に備わった原始の感性を呼び起こしてくれます。アートも工芸も骨董も、目に見えぬ「知覚」によって捉えてみる。それが今展のテーマです。

昨年の「衝撃の美」に続く第二弾。Sezuan Antiques & Art の岩橋直哉さん、そして個人コレクターの中川伸二さん、画家の吉原航平さんを新たに迎え、展覧いたします。

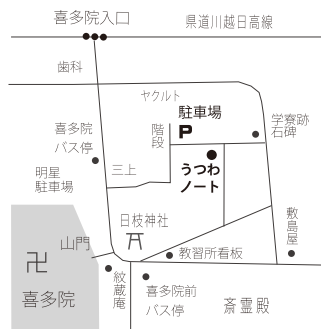
遠くから聞こえてくる太鼓の音。それは微かながらも確かな振動で心の奥から突上げてきます。それは次の時代が要請する新たな「美の鼓動」ではないでしょうか。 店主

出展者

Sezuan Antiques & Art 岩橋直哉
中川伸二（コレクター）
吉原航平（画家）

ギャラリー うつわノート

埼玉県川越市小仙波町1-7-6
TEL 049-298-8715 MAIL utsuwanote@gmail.com



電車：川越駅(東武東上線・JR)より徒歩25分
本川越駅(西武新宿線)より徒歩20分
バス：駅東口3番乗場 [小江戸名所めぐり]～[喜多院前]
駅西口2番乗場 [小江戸巡回バス]～[喜多院]
車：ギャラリー専用の駐車場は北側(5～8番)



木炭ドローイング 吉原航平

見えざる力の使者である動物たちは、
もはや原始時代のように、人類を教え導く役割を果たしていない。
熊、ライオン、象、大角ヤギ、羚羊などはわれわれが訪れる動物園のおりの中にいる。
人間はもはや未開の原野や処女林の世界にやってきた新参者ではない。
われわれのすぐそばにいるのは野獣や野鳥ではなく、
火の星の周囲を絶え間なく回っている惑星の上で、
物と空間を争いあっている同じ人間どもである。
われわれは肉体的にも精神的にも、
数十万年続いた旧石器時代の狩猟民族の世界に住んでいる訳ではない。
にもかかわらず、われわれの肉体の形そのものは、また精神構造も、
彼らの生活とライフスタイルとに大きく負っている。
彼らの使者である動物たちの記憶は、なぜかまだわれわれの内に眠っているに相違ない。
その証拠に、われわれが未開の地に足を踏み入れるとき、それらはふと目覚めて動き出す。
それらは稲妻の光を見ると驚いて目を覚ます。
そして、われわれが原始的な壁画のある大洞窟を訪れるときも、
それらはやはり目を覚まして、太古を思い出す。
そういう洞窟のシャーマンたちが恍惚境に入ったときは、
内面的な暗がりのなかに陥ったことだろうが、
それがどんなものであれ、同じ暗がりがわれわれ自身の内部にあって、
われわれは眠りのたびにそこを訪れているに違いない。